

7月16日(火)

神によって大胆に

聖書朗読 詩篇 138篇

ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

ヘブル 4:16

私たちは誰でも様々な困難に四方を塞がれ全く孤立していると感じることがあります。そのようなとき、神様を褒め称えるのが最も難しいのではないのでしょうか。

神様はそのご性質のゆえに、褒め称えられるべきお方です。神様は羊飼いのダビデを選ばれ、王の座にまで昇らせられました。ダビデがサウル王に追われた時も、息子アブシャロムの謀反に遭った時も、神様は彼を守られました。どんなに大きな試練にあっても、神様はそこにおられました。神様が揺らぐことなく信頼に値するお方であるという事実のゆえに、ダビデは神様が彼を“大胆で動じない者”としてくださったと告白しています。ダビデは神様が目的を持っておられ、敵は神様のみこころを妨げることは何もできないと知っていました。

私たちも神様の子どもとして、ダビデと同じように確信することができます。神様は変わらず真なるお方であり、私たち一人ひとりに目的を持っておられます。神様が私たちを愛し、思いをかけてくださるので、私たちは、神様が必ず応えてくださるという確信を持って、祈りのうちに大胆に神様のもとへ近づくことができます。

キリストへの信頼は、私たちを怠^{なま}けさせたり、油断させたり、注意^{おこた}を怠らせ

たりするものではない。その信頼ゆえに、私たちは目を覚まし、先へ進み、積極的に正しい歩みをするようになる。 —フルドリッヒ・ツヴィングリ*

(*編注:スイス最初の宗教改革者。1484-1531)

讚美歌 520 しずけき河のきしべを

祈り お父様。私たちは恐れや困難をあなた様に隠すことなく、むしろ大胆に御前に差し出します。それによって、あなた様の御子を通して私たちに強さを与えてくださいますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 メンフィス / デイヴィッド・ラッド

7月17日(水)

自らを吟味する

聖書朗読 詩篇 139篇

私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。 詩篇 139:24

自分を吟味すること、それは苦痛なことですが、必要なプロセスです。ダビデは、神様が全知全能であらゆる場所におられるお方であることを認めて、詩篇139篇を始めています。神様の全知全能と遍在というご性質は、私たちが自分を吟味するときの助けとなります。何故でしょうか。それは、私たちは自分に甘く、自らの過ちに気付こうとしないゆえに、その過ちの兆しさえ見過ごしてしまうのです。ダビデは私たちに、神様は私たちを知っておられるのだということを思い起こさせてくれています。神様は私たちの座るのも立つのも(私たちの行動を)知っておられ、私たちの思いまでも知っておられます。ダビデは、私たちが神様の目から逃れられる場所はどこにもないことを、私たちに思い起こさせています。自分を吟味することは辛いですが、しなければならないことです。

イエス様を三度知らないと言った晩、ペテロが抱いた思いを誰も味わいたいとは思わないでしょう。(マタイ 26:74~75)でも私たちは、しばしば自分と向き合うことが必要です。パウロは『あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。』(コリントⅡ 13:5)と言っています。罪に気付いても、まだ“バレ”ていないと、私たちは自らを正当化してしまいがちです。ダビデの祈りは、私たちがどれほど抵抗しても、自らを欺いても、それらすべてを打ち消すものです。詩篇 139:23~24を読んでみてください。この祈りこそ私たちの魂を向上させてくれるものです。

讚美歌 250 つみのちからせまりて

祈り 親愛なる天のお父様。あなた様の御力を認めさせてください。あなた様の強さに頼らせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ヒューストン / ラリー・ロバーツ

7月18日(木)

神様はわかってくださる

聖書朗読 詩篇 139:1~12

主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。

詩篇 139:1

私たちは自分を真に理解してくれる誰かを求めて生きているように思います。友人関係や恋愛関係にそれを求める人もいるでしょう。コミュニケーションについての本を読んだり、お互いの理解を深めるためにカウンセラーに相談したりすることもあるでしょう。このような行動は前向きで建設的なものですが、やはり苛立つことはしばしばあります。どんなに素晴らしいコミュニケーションがとれたとしても、人間同士は完全に相手を理解することは出来ません。けれども、神様は完全に私たちを理解して下さり、私たちの内も外もすべてご存知です。

詩篇の詩人はこう言っています。『主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。あなたこそは私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます。…あなたは前からうしろから私を取り囲み、御手を私の上に置かれました。』(詩篇 139:1~3、5)

神様ほど深い親しみの思いを持って、私たちを知ってくださるお方は他にいません。神様は常にそばにいてくださり、私たちを取り囲み、御手を私たちの上に置かれます。釈明したり、自分が正しいことをうまく伝えることが出来なかつたりするとき、神様は私たちを引き寄せ、「わかっている」と言ってくださいます。私たちは決してひとりではありません。

讚美歌 298 やすかれ、わがこころよ

祈り 主よ。私は自分の弱さを恥じます。けれども、あなた様がそばにおられると知ること、私もあなた様の強さに与ることが出来るのだということに気付かされます。イエス様のお名前によって。アーメン。

ニューヨーク州 クリフトン・パーク / エリザベス・ハドロック

7月19日(金)

失意のときの恵み

聖書朗読 詩篇 139:11~24

わたしは秘められている財宝と、ひそかな所の隠された宝をあなたに与える。それは、わたしが主であり、あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることをあなたが知るためだ。
イザヤ 45:3

「あなたは癌です。」私は医師からこの衝撃的な言葉を聞いたとき、目の前が真っ暗になりました。そのとき私は詩篇の詩人ダビデの言葉を思い出しました。『夜は昼のように明るいのです。暗やみも光も同じことです。』(12節)なんと素晴らしいことばでしょう。暗闇も光も神様にとっては同じこと。そして神様は堅固で揺るぎない、暗闇にも左右されることのないお方。たとえ私たちの歩みが嵐の雲に覆われ、その終わりが見えず、暗闇しか見えなくとも、神様は光が無いことで何ら影響されることはない。私たちは確信することができます。

私たちは暗い失意の歳月によって自分の本性を変えてはいけません。どんなに心に重荷を抱えようと、この世が暗い影に覆われようと、私たちに光を照らして下さる神様を信頼することができます。私たちの暗闇は夜明けとなり、神様の平安が曙のように雲を貫き通します。私たちが失意のどん底にあるときでも、神様は私たちに宝を与えてくださいます。最も必要なときに、思いがけない恵みが降り注がれます。光が差し込み、神様が神様であるがゆえに、夜は昼のように輝くことが出来るのです。

讚美歌 533 くしき主の光

祈り 主よ。失意の時もすぐそばにいてくださり感謝します。あなた様は光であり、あなた様の私へのお心や御愛を変えるものは何もないことをいつも覚えさせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。



テキサス州 サン・アントニオ / タミー・クロス

7月20日(土)

困難なとき

聖書朗読 詩篇142篇

私は主に向かい、声をあげて叫びます。声をあげ、主にあわれみを請います。
私は御前に自分の嘆きを注ぎ出し、私の苦しみを御前に言い表します。

詩篇 142:1~2

アメリカン・フットボールチーム、バッファロー・ビルズのダマー・ハムリン選手が、シンシナティ・ベンガルズ戦の第1クォーターでタックルした直後、心肺停止で倒れたとき、競技場は静寂に包まれました。実際、ダマーの状態は深刻で危機的で、チームメイトの誰もがそう思いました。

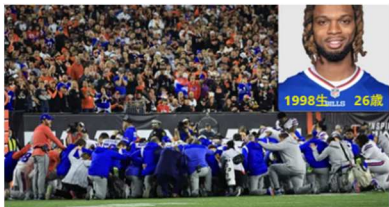
双方の選手が^{ひざまず} 跪き、何人かは立ち上がりて手を繋ぎ、仲間のために一丸となって祈りました。その様子を多くの人たちが目にし、その映像をソーシャルメディアに載せました。世界中の人が、神様が介入してくださることを祈り求めたのです。

試練のとき、神様が私たちの唯一の希望です。絶望的な状況にあったヨナは、大きな魚の腹の中から神様に声をあげて叫んでいます。ダビデは彼の敵から逃れることを願っています。エリヤは死んだ子どものいのちが返されることを主に叫び求め、ハンナは自分に子が与えられることを祈り求めています。

『また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。』(ピリピ 4:19)何か問題を抱えていますか。祈りましょう。

讚美歌 525 めぐみふかき主のほか

祈り 親愛なる主よ。私たちが無力で欠けた者であることを覚えてください。
あなた様が傍にいてくださること、そして、何か問題を抱えている時だけでなく絶えずあなた様が必要であり、特に困難の只中にある時あなた様が必要であることを、私たちが忘れないようにしてください。イエス様のお名前によって。アーメン。



ケンタッキー州 マウント・ワシントン
コニー・シンプキンズ・トーマス

7月21日(日)

偉大なる主

聖書朗読 詩篇 145:1~13

主よ。あなたの造られたすべてのものは、あなたに感謝し、
あなたの聖徒はあなたをほめたたえます。 詩篇145:10

私たちが最も求められている事、それは神様に栄光を帰すことです。究極的に、あらゆる物や人は神様に栄光を帰すでしょう。でも今、私たちのなすべきことは、神様を褒め、神様に栄光を帰すように行動し、語り、考えることです。今日の詩篇の箇所、ダビデは具体的には語っていませんが、私たちに、神様がなして下さった事を思い巡らすよう促しています。ダビデは、神様の大能のわざ、奇しいわざ、恐ろしいみわざ、豊かないつくしみ、義、あわれみ、そして永遠にわたる王国について語っています。

宇宙の神秘と広大さ、ひとりの人間の細胞の複雑さ、雷の威力、日没の美しさ、生まれたばかりの赤ん坊を^{いと}愛おしむ母親の優しさ、そしてイエス・キリストを通して完全に表された神様の大きい恵み、これらのことを思うとき、私たちは跪き“栄光あれ”と叫びます。

神の民である私たちが皆、あらゆる所にある神様のみわざにもっと気付くようになれば良いと思います。『代は代へと…あなたの大能のわざを告げ知らせるでしょう。』と、ダビデが4節で示唆していることを実践しましょう。私たちが神様を褒めたたえ礼拝するのを見て、周りの人たちも神様の『恐ろしいみわざの力』を見ることになるかもしれません。

讚美歌 79 ほめたたえよ、つくりぬしを

祈り 親愛なるお父様。あなた様の造られたもの、聖書、そして私たちの主、イエス・キリストのうちに、あなた様ご自身を表わして下さり感謝します。あなた様を礼拝し褒め称えたいという思いを私たちに抱かせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック / ダグラス・ヘイル